ツール・ド・十勝

坂本（帯畜大）S―4制覇

小学3・4年スポーツ　木綿（KBCカマダ）優勝

【S―4クラス】後方から順位を上げて初優勝を飾った坂本樹一朗

自転車ロードレースの2010ツール・ド・十勝は19日、市内中心部のとかちプラザ周回特設コース（1周500㍍）でクリテリウムを行った。十勝関係選手はS―4クラスで坂本樹一朗（帯畜大自転車部）が優勝、S―5クラスの芦沢右史（フェニックスメムロ　レーシング）は2位、小学3・4年生スポーツクラスは木綿宏太（KBCカマダ）が優勝を飾った。40周で争ったエリートクラスは栗栖嵩（N・ウインズ）が28分22秒77で制した。

最終日のクリテリウムには約230人が出場。エリートクラスではツール・ド・北海道の北海道選抜メンバーの栗栖と織田修平（DOKYU・RC）がデッドヒートを繰り広げた。同クラスに挑戦した滝口勇二（KBCカマダ）は16位だった。このほか一輪車レースやママチャリレースなど趣向を凝らしたイベントも行われた。参加者には池田町のハッピネスデーリィ提供のアイスクリームも配られ好評だった。（古川雄介）

〝お試し〟初参戦　驚きの成果に

坂本

○…初参戦の坂本樹一朗（21）＝帯畜大3年＝がS―4クラスをトップでフィニッシュ。第2集団から1人で抜け出して先頭集団に追いつき、2位の選手の背中に張り付いてラスト1周で前へ出た。「こんなに集団で走るのは初めてだったが、ついていくことだけ意識した。運がよかった」と笑顔で喜んだ。

広島県出身。「せっかく道の広い北海道に来たのだから」と大学から自転車を始めた。自転車部は6人のサークルで、他と兼部している部員がほとんど。坂本も自動車部に所属している。今回はお試し参戦のはずがクリテリウムはS―4で坂本と竹内尚也が堂々のワン・ツー達成。思わぬ戦果に驚いている。

小さなサークルのため現在は活動の拠点がない。今春自転車を壊してしまった坂本は今大会に向けて自動車部の部室で自転車を組んだという。今回の結果に「部室が欲しいです」とぬかりなくアピールしていた。

小学３・４年生スポーツクラスを制した木綿宏太は表彰台で笑顔

先頭譲らず　逃げ切り成功

木綿

○…小学3・4年生スポーツクラスは木綿宏太（KBCカマダ、屈足南小4年）が1周目から積極的に前に出て先頭を譲らなかった。「お父さん（仁司さん＝S―4クラスに参戦）に言われた通りに逃げ切ることができた」とにっこり。父とともに毎回15㌔も乗り込んできた成果が出た。

冬はアイスホッケーの清水御影少年団で活躍する木綿だが、夏場は管内外の自転車レースに参戦している。スピードも30㌔台が出せるようになった。今夏はツール・ド・北海道の一般参加レースにも出場予定。「6年生より早くゴールしたい」と意欲満々だ。

練習不足だった

S―5クラス2位・芦沢右史の話　昨年優勝しているのでコースの状況も分かっていたが、練習不足だった。様子を見ながら先頭集団についていったが、思っていたより前が速かった。冬のスキーにつなげるため（チームの）子供たちと自転車でトレーニングしているが、僕のほうが熱くなっている。

〈タイムトライアル〉（1周4・7㌔）
◇エリート＝①ブライアン・バークハウス（NSR）6分20秒13②藤原真（DOKYU・RC）6分23秒47③織田修平（同）6分26秒52◇S―2＝①マット・デニング（サイクルニセコ）6分30秒87②石井光平（NSR）6分32秒35③寺田和格（SFRC）6分34秒30◇S―3＝①ベバン・コレス（サイクルニセコ）6分28秒08②永田友貴（ファントムエコ　パワー）6分50秒82③福井友規（札幌車連）6分52秒30◇S―4＝①伊藤憲宏（FDA　MIYASEI　BICYCLE）6分40秒59②大村健一（Bobbish）6分55秒62③立花良行（チーム　パッション）6分56秒94◇S―5＝①種村之宏（デ・シクロ・ペダリ）7分11秒69②野川和也（フリー）7分12秒65③佐山廣和（Jay　Parker）7分15秒81◇マスターズ＝①村上昌美（KBCカマダ）7分4秒56②石澤一治（KBCカマダ）7分9秒22③駒谷修（札幌車連）7分12秒98◇レディース＝①米田和美（Ready　go　JAPAN・WAKA）7分18秒82②バネッサ・コレス（サイクルニセコ）7分32秒59③秋元星奈（NOKOムラヤマ）8分6秒04◇ジュニア＝①伊藤舞紀（DOKYU・RC）6分32秒65②西尾憲人（西尾兄弟）6分57秒94③佐藤広基（TEAM　CYCLEPLAZA）7分1秒09◇中学生スポーツ＝①山田裕介（HAKODATE　RC）7分35秒43②木村康己（札幌車連）7分36秒36③奥場勝利（同）7分41秒01◇小学5・6年生スポーツ＝①林大雅（KBCカマダ）8分35秒83②秋元優星（NOKOムラヤマ）8分47秒06③中谷亮太（TEAM　CYCLEPLAZA）9分0秒15◇小学3・4年生スポーツ＝①木綿宏太（KBCカマダ）8分37秒48②榎木諒雅（道産子魂）8分53秒45③南洋次（KBC）9分52秒07◇小学1・2年生スポーツ＝①中谷研斗（TEAM　CYCLEPLAZA）9分57秒11②木綿啓太（KBCカマダ）10分41秒17③木綿理子（札幌車連）12分38秒06

〈ロードレース〉（1周4・7㌔）
◇エリート（10周）＝①伊藤雄哉（DOKYU・RC）1時間6分57秒86②相澤孝至（北大自転車部）1時間6分57秒93③ベンッサ・コレス（サイクルニセコ）1時間6分58秒00◇S―2（6周）＝①松本公平（札幌車連）40分34秒55②栗山広毅（北大自転車部）40分34秒71③寺田和格（SFRC）40分34秒87◇S―3（4周）＝①永田友貴（ファントムエコ　パワー）27分7秒67②高橋和寿（TEAM　Limits）27分7秒96③星雅人（CYCLES　WAKASA）27分8秒14◇S―4（4周）＝①三谷渉（Jay　Parker）27分33秒37②大村健一（Bobbish）27分34秒38③本間航一（フリー）27分34秒56◇S―5（3周）＝①野崎雅嗣（TEAM　CYCLEPLAZA）21分28秒74②野川和也（フリー）21分28秒81③水口ヒカル（レーシング）21分28秒85◇マスターズ（3周）＝①村上昌美（札幌車連）21分29秒18②安藤源基（同）21分29秒24③駒谷修（札幌車連）21分29秒64◇レディース（3周）＝①米田和美（Ready　go　JAPAN・WAKA）21分30秒17②秋元星奈（NOKOムラヤマ）21分34秒39③バネッサ・コレス（サイクルニセコ）22分3秒10◇ジュニア（6周）＝①伊藤舞紀（DOKYU・RC）40分35秒12②佐藤広基（TEAM　CYCLEPLAZA）40分35秒35③木村裕己（札幌車連）40分35秒57◇中学スポーツ（2周）＝①山田裕介（HAKODATE　RC）15分19秒27②奥場勝利（札幌車連）15分19秒38③中谷優介（TEAM　CYCLEPLAZA）15分23秒38◇小学5・6年生スポーツ（1周）＝①秋元優星（NOKOムラヤマ）8分11秒29②林大雅（KBCカマダ）8分18秒14②三谷渉（Jay　Parker）19分27秒51③福井友規（札幌車連）19分27秒73◇S―4（20周）＝①坂本樹一朗（帯畜大自転車部）14分56秒84②竹内尚也（同）14分57秒31③立花良行（チームパッション）14分57秒35◇S―5（15周）＝①三木田秀明（札幌車連）11分47秒53②芦沢右史（フェニックス　メムロレーシング）11分50秒74③野川和也（フリー）11分51秒51◇小学5・6年生スポーツ（8周）＝①藤井勇大（TM　Sun　Hair）7分16秒04②秋元優星（NOKOムラヤマ）7分16秒95③林大雅（KBCカマダ）7分17秒44◇小学3・4年生スポーツ（7周）＝①木綿宏太（KBCカマダ）6分37秒57②榎木諒雅（道産子魂）6分43秒09③佐山遥紀（フリー）7分22秒39◇小学1・2年生スポーツ（5周）＝①中谷研斗（TEAM　CYCLEPLAZA）5分17秒62②木綿啓太（KBCカマダ）5分57秒46③木綿理子（札幌車連）6分24秒87◇マスターズ（15周）＝①駒谷修（札幌車連）11分33秒69②小島五郎（恵庭レーシング）11分35秒65③村上昌美（札幌車連）11分35秒69◇中学スポーツ（15周）＝①木村康己（札幌車連）11分35秒53②中谷優介（TEAM　CYCLEPLAZA）11分36秒36③奥場勝利（札幌車連）11分40秒12①米田和美（Ready　go　JAPAN・WAKA）10分54秒66②秋元星奈（NOKOムラヤマ）11分49秒00③バネッサ・コレス（サイクルニセコ）12分2秒12◇小学1・2年生マチャリ（5周）＝①中島悠斗（札幌車連）6分30秒53②高橋知佳子（フリー）5分42秒70・1周遅れ③種村岳秀（同）6分43秒90・同◇ママチャリ個人耐久15分＝①牧野敏也（フリー）15周②河野克徳（同）14周③道見正夫（同）13周◇一輪車20インチ以上（4周）＝①長谷川裕明（フリー）6分36秒96②池田有寿（同）7分36秒56③広瀬まい（KBC）7分19秒40◇一輪車18インチ（3周）＝①松山真幸（KBC）6分48秒31②柳澤由奈（フリー）7分54秒62③高松愛梨（KBC）8分9秒47

山本幸3連覇

全日本マウンテンバイク選手権　兄・和弘は9位

2時間5分11秒69で3連覇を決めた山本幸平（大賀静子カメラマン撮影）

【長野】マウンテンバイクの第23回全日本選手権大会（日本自転車競技連盟主催）が17～19日、長野県諏訪郡富士見町の富士見パノラマリゾートで行われ、最終日のクロスカントリー・シニアエリートクラスで山本幸平（チームブリヂストン・アンカー国際アウトドア専門学院、帯農高出・幕別町出身）が2時間5分11秒69をマークし、2位に3分差をつける圧勝で3連覇を達成した。山本の兄・和弘（キャノンデール・ファクトリーレーシングチーム―北海道ハイテクノロジー専門学校、帯三条高出）は9位だった。

３連覇を達成し、表彰台で涙を浮かべて喜ぶ山本幸平（中央、大賀静子カメラマン撮影）

力走を見せ9位となった山本和弘（大賀静子カメラマン撮影）

芽室西が初V

団体戦　男子は帯緑園5年ぶり

全十勝中体連　夏季

ソフトテニス

（19日・帯広の森テニスコート）

最終日は男女団体戦を行った。女子決勝は芽室西が2―1で札内東に逆転勝ちし、初優勝を飾った。男子決勝は帯緑園が2―1で帯南町に競り勝ち5年ぶり4度目の優勝を果たした。男女の優勝校は30日、8月1日に浩小牧市で行われる全道大会に出場する。（高橋宏幸）

総力尽くし　ついに頂点へ

女子・芽室西

○…昨年まで2年連続で準優勝とあと一歩のところで涙をのんできた女子の芽室西がついに頂点に立った。増森小幸主将（3年）は「コートの中もフェンスの外もみんなで応援して全員で1本取れた」と総力を尽くしてつかんだ優勝に胸を張った。

決勝は第1ペアの久司唯・矢後英里組（2年）は敗れ先行されたが、第2ペアは個人戦を制しているエースペア・増森・樋詰亜莉沙組（3年）が取り返しイーブンに。第3ペアは、ともに個人戦でベスト4に入っている鳥本智祐華・大野奈子組（2年・3年）と道端ゆき・杉山亜夏莉組（札内東3年）が互いに譲らずファイナルまでもつれる激闘となったが、後衛・鳥本の的確なショットと、小学2年から5年間バドミントンの経験がある前衛・大野の強烈なスマッシュがさえ4―3でもぎ取った。「いつも通りやろうと思った。全部出し切った感じ」と大野。鳥本は「周りの応援が大きかった」と感謝する。

全道をにらみ「今日みたいにみんなで1本のテニスをしたい」と増森主将。一丸で戦うスタイルを崩さず全道でも頂点を狙うつもりだ。

【女子決勝・芽室西―札内東】高い打点から強烈なスマッシュを放つ芽室西の大野奈子（右）。左は鳥本智祐華

女子初優勝の芽室西

栄冠「夢のよう」　接戦制し歓喜爆発

男子・帯緑園

○…「夢のようです。ずっと目標でしたから…」。男子・帯緑園の川道陵真主将（3年）は感慨深く全十勝制覇の喜びをかみしめた。第3ペアの増地優有・清野純平組（3年）が勝利し優勝が決まった瞬間、団体メンバー8人全員は笑顔と感涙で歓喜を爆発させた。

帯南町との決勝は両者譲らず1―1で勝負は最終の第3ペアにゆだねられた。増地・清野組は第1ゲームこそ落としたものの、粘り強いプレーで1本ずつ確実にポイントを重ねた。「緊張したけれど、応援があったからそれもなくなった」と2人。仲間の声援の後押しを受けながら第2ゲームから4連取で試合を決めた。増地は「今まで強いところには勝てず、今回も負けるだろうと思っていた」と大仕事を果たし感無量の様子だった。

無我夢中でつかんだ全道切符。川道主将は「負けたら引退。自分たちからミスをせず悔いのない試合をしてきたい」と完全燃焼を誓った。

男子5年ぶり4度目優勝の帯緑園

【男子決勝・帯緑園―帯南町】粘り強いプレーで勝利を手繰り寄せた帯緑園の第３ペア・増地優有・清野純平組（左から）

【男子】〈団体戦〉◇予選リーグ▽Aブロック＝①更別中央2勝②札内1勝1敗③帯二2敗▽Bブロック＝①帯南町2勝②帯六1勝1敗③中札内2敗▽Cブロック＝①芽室西2勝②上士幌1勝1敗③池田2敗▽Dブロック＝①帯八2勝②芽室1勝1敗③帯五2敗▽Eブロック＝①大樹2勝②帯一1勝1敗③帯三2敗▽Fブロック＝①札内東2勝②音更1勝1敗③帯緑園2敗◇決勝トーナメント▽1回戦芽室西2―1帯南町大樹2―0帯南町▽準決勝芽室2―1更別中央札内東2―1大樹▽決勝芽室西2―1札内東

【女子】〈団体戦〉◇予選リーグ▽Aブロック＝①帯緑園2勝②上美生1勝1敗③帯川西2敗▽Bブロック＝①帯西陵3勝②緑南3敗▽Cブロック＝①帯四3勝②更2勝1敗③幕別1勝2敗④屈足3敗▽Dブロック＝①帯南町3勝②内3敗◇決勝トーナメント▽1回戦帯緑園2―1帯西陵帯南町2―1帯四▽決勝帯緑園2―1帯南町